

地球科学系科目に対する学生ニーズに見る 2011 年東北地方太平洋沖地震の影響 Research study on the change of the university students' interests on earth science after 2011 Tohoku earthquake

松岡 東香^{1*}, 山下 幹也², 上村 剛史³

MATSUOKA, Haruka^{1*}, YAMASHITA, Mikiya², UEMURA, Takeshi³

¹ 筑波学院大学, ² 海洋研究開発機構, ³ 海城中学・高等学校

¹Tsukuba Gakuin University, ²JAMSTEC, ³Kaijo Junior and Senior High school

近年, 2011 年東北地方太平洋沖地震や火山噴火といった自然災害からレアメタルをはじめとする資源枯渇問題まで, 地球科学に関する幅広い分野について社会的関心の高まりが見受けられる。そのため, 教養科目として地球科学系の講義を受講する一般大学生も多い。こうした期待に応え, 十分な教育効果をあげるためには, 学生のニーズ調査と適切な学習ゴール設定が不可欠である。しかしながら, 地球科学に関する(地球科学専攻ではない)一般大学生の知識や関心に対する調査報告は十分とはいえない。そこで, 筆者らは継続的なアンケート調査を実施し, 学生ニーズの把握や統計分析を行い, 教育効果の向上を目指している。

筑波学院大学では, 2009 年度より地球科学系の科目「地球の過去・現在・未来」と「海洋と資源」を通して地球科学への理解と関心を深める一般教育を行っている。両講義では, 年度末にアンケートを実施し, 地球科学における学生の関心の対象と, 講義に対するニーズについて調査している。2011 年度からは, 大妻女子大学社会情報学部においても同様の調査を開始した。前大会では, 受講者の 7 割以上が地球温暖化や環境への関心を持っており, その多くが「地球科学が役に立つ」と考えていること, また, 自然災害に対処できるかとの問いには 7 割以上が否定的な回答をしたことなどを報告した。

本大会では, 2011 年東北地方太平洋沖地震を踏まえて実施した地震に関するアンケート調査の結果と, 2010 年度から継続する従来のアンケート調査の結果について報告する。筑波学院大学が位置する地域における最大震度が 6 弱であったこともあり, 学生の意識やニーズには震災の前後で大きな変化が生じており, 地震や津波のメカニズムに関心を抱いた学生が急増していることが認められている。

キーワード: 地球科学, アンケート調査, 一般教育, 2011 年東北地方太平洋沖地震

Keywords: Earth science, questionnaire survey, general education, 2011 Tohoku earthquake